

楓葉



独立行政法人国立病院機構
横浜医療センター附属横浜看護学校
発行責任者 佐竹一枝

2025年9月 同窓会誌



同窓会誌(表紙)の歴史

<写真提供: 恩師金子先生の写真集より>



2000年



2002年



2005年



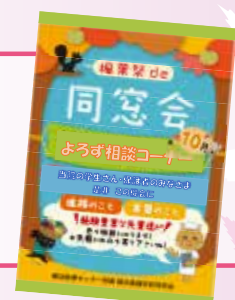
2015年

●会誌発送は、会員の有志で集まり袋詰めをしています。

✿ 楓葉祭参加 ~2013年から参加しています~

今年は10月29日(土)10時から参加を予定しています。

「よろず相談コーナー」を開催し学生さんの話を聞き相談にのるなど
交流を深めます。是非ご来場ください。



会長挨拶

独立行政法人国立病院機構
横浜医療センター附属横浜看護学校
同窓会会長 佐竹 一枝



会員の皆様におかれましては、ご健勝でご活躍のことと存じます。
日頃より同窓会活動にご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

本同窓会は、令和7年3月60回生62名を新会員として迎え、会員数2900余名となりました。

今年は5年に一度の横浜看護学校同窓会総会・懇親会を6月7日(土)母校において開催し、多数ご出席頂きまして誠にありがとうございました。懐かしい思い出話に花を咲かせ、横浜看護学校の同窓生であることに誇りを感じ、なお一層宝物となりました。

総会をはぎの返信によりますと、介護施設・訪問看護・地域包括支援センター・デイサービス・保育園・役所・大学・看護学校など医療・福祉・介護の多方面にわたり活躍されております。

本会会則の目的にありますように、今、同窓会に求められているのは、同窓会員の皆様との親睦を深め、会員相互の交流の場をつくり、この会員の大きな繋がりによって同窓会ならびに母校の発展に寄与することと考えております。役員会では、後輩たちが本校を巣立ち、同窓会発展の担い手になってもらえるよう、活動内容を学生に伝え、楓葉祭へ参加し、できる限りの交流を続けております。この度の総会懇親会で諸先輩方に暖かく励ましの言葉を頂戴し、同窓会は人生の歴史であると確信致しました。是非、各回生の同期会で集っていただき同窓生の結束を固め、母校の歴史を盛り立てていきましょう。

会員の皆様と同窓会を身近に感じていただけるよう努め、役員一丸となって頑張りたいと思っておりますので、引き続きご協力とご支援の程よろしくお願い致します。

ご多忙中にもかかわらずご寄稿くださいました方々に心より御礼申し上げます。

末尾になりますが、皆様のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。



旧学生寮



総会82名出席

同窓会より
寄贈品

◎体育館暗幕・演台
2007年新校舎 体育館竣工に寄せて



◎校章額
2023年60周年記念に寄せて



ご挨拶

～同窓会に参加させていただいて～

独立行政法人国立病院機構
横浜医療センター附属横浜看護学校
学校長 宇治原 誠



先の6月7日に横浜看護学校の同窓会に参加させていただきました。懐かしい
お顔も拝見し、また少しお話しさせていただいた方もいらっしゃいました。

私は2001年(平成13年)に国立横浜病院時代の当院に赴任し、その翌年から専門の内分泌内科の
講義をさせていただいていました。当時は建て替え前の古い校舎であり、廊下は板敷きであった
ように記憶しています。建物は古くても、当時の学生さんは若いこともあり、とても元気はつらつで
活発でした。あれから数年後に独立行政法人となり校舎も新築されました。医療は徐々に変化し、
デジタル技術を取り入れ、看護学や看護技術も変化し続けています。学生の勉強すべき量は以前に
比べ増加しているのは間違いないのですが、学生さんの表情は今も昔も変わらないのではと思って
います。今の学生さんも、先輩である皆様と同じく元気はつらつです。

現在私は、学校長として学校を適正に運営する立場となり、講義する内容は専門の臨床の講義は
部下に任せ、医療関係の法律、倫理など重要なものではありませんが、眠気を誘うものになりました。
学校の運営は以前に比べ厳しい状況になっている部分がありますが、横浜看護学校をさらに発展
させることが私の使命です。今後とも卒業生の皆様のご支援、ご協力をよろしくお願いします。

看護学校の近況

独立行政法人国立病院機構
横浜医療センター附属横浜看護学校
副学校長 山岸 利恵子



令和5年4月より副学校長を務めております山岸です。同窓会の皆様には、日頃
より当校の運営にご支援を賜り感謝申し上げます。

この度は10年ぶりの総会、懇親会の開催、そして同窓会誌「楓葉」の発行、おめでとうございます。
総会では大勢の卒業生が参加され、学校が愛されていることを実感いたしました。

また、一昨年の創立60周年記念では、同窓会より額入りの刺繍校章を頂戴いたしましてありがと
うございました。玄関ホールに飾らせていただいております。

さて、今年度は第63回生が入学しました。看護師になるという高い志を持ち、学習に励んでおり
ます。18歳人口の減少、大学志向など入学生を取り巻く社会の変化はありますが、当校の強みである
県内国立病院機構病院との強い連携により、当校の伝統を受け継ぐ学生たちを育て参ります。

昨年度の卒業生は、就職者のうち約85%が国立病院機構に就職しました。また、約95%が県内に就職
しており、神奈川県の見守り体制を担っていると自負しております。

目新しいことでは、SNSによる情報発信(ブログ、YouTube、Instagram)の充実を図っています。学校
の様々な活動を掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

最後になりますが、卒業生の皆様のご活躍と同窓会の発展を祈念しております。

総会懇親会開催 6月7日(土)10:00~14:30

独立行政法人国立病院機構
横浜医療センター附属横浜看護学校同窓会

場所 横浜看護学校
出席 会員73名
宇治原学校長
山岸副学校長
菅山教育主事
五十嵐教員
恩師 金子医師



横浜看護学校校歌

作詩 藤原忠
作曲 青藤高順

しるがぬ雲のけだるさ きよらかさ
理髪に癒えし心に いともうつつ
うらましい 雲よ 進めよ
永遠の平和をためて 雲どかぬ道をほろかに
すみわたる雲の やさしさ うつくしさ
希望に光る心どみに いともうつつ
うらましい 雲よ 静れよ
健康のまもりの使令 愛の灯を高くかかげて



懇親会に寄せて



金子先生より、横浜医療センター、横浜看護学校にまつわる貴重な写真の映写に合わせ、木造の病院・学校、懐かしい先生方、学校祭、謝恩会のお話をして頂きました。看護学生時代を思い出し、感慨深いひと時を過ごすことができました。この場をお借りして感謝を申し上げます。金子先生は、昭和30年から59年6月まで国立横浜病院在籍、外科医長を歴任しております。昭和38年看護学校開校当時より解剖生理および外科学などの講師を務め、学生が親しみやすく楽しい授業をして頂きました。現在は介護老人保健施設医師として活躍中です。

会員の方々より、看護学校の思い出や看護師人生を振り返って
現在の想いをお話して頂きましたのでご紹介致します。

『爽やかな初夏の日』

2回生 奥村 典子

国立横浜病院附属看護学院60年ぶりの同窓会に参加しました。現代風の校舎…何気に他人行儀な気持で受付を…が、何十年ぶりかの変わらない笑顔に出会い、あの頃にタイムスリップ。少し気持のテンションが元気になりました。圧巻はDr. 金子靖先生の開校からの学院、看護学生の映像記録でした。学院か現学校に整って行く過程。

タイムスリップは私の脳裏に古い校舎の前での朝礼での教務主任先生の姿、ぶら下がってでも国家試験合格を！国立病院ナースのプライドを、今時、校章と校歌を知りました。ふと、私(達)は戴帽式に誓ったナイチンゲール誓詞が校章、校歌であったと思えたり…看護婦のシンボル白衣が無くなりキャップ、胸ハンカチ等でのおしゃれも無くなり…看護婦が看護師になりました。激され得た看護婦免許が私の評としてあり続けて、感謝です。

80歳を前にして60年ぶりの国立横浜病院附属看護学校に出席したクラスメート6名頑張っております。創立当時から、何時も看護学生を愛おしんで育て下さったDr. 金子靖先生に心から感謝しております。

同窓会活動に様々尽力くださってる後輩、役員の皆さま、学校関係の職員の方々に心よりお礼申し上げます。



6回生 中村 厚子

先日の同窓会では、金子先生始め皆様とお目にかかることができ、楽しいひと時を過ごせました。散会後は、久々に「田谷の洞窟」を見学し帰路に着きました。学生時代は大船駅に向かうバスの中から看板を眺めるばかりでしたが、還暦の頃の同窓会の帰りに寄ったところ、真言密教の修行・信仰の場であり、一枚岩に掘られた迷路のような洞窟、仏像に圧倒されました。一見をお薦めします。

さて、私の乳幼児期は病弱で、教科書に載っていた「小児が罹りやすい疾患」の殆どに罹った。内向的で病弱だった為、幼児期の集団生活は全く経験せず小学生になった。右も左も分からず、簡単な問題でも手を挙げられず、小2でやっと意見を発表できるようになり、小3頃から性格が変わった。中学では健康優良児に選ばれ、生徒会長にもなった。社会人としてのスタートは看護師だったが、現在、保育園の副園長をしている。園のモットーは「遊びが一番」。遊びや読書を通して子供たちは多くの事を学んでゆく。遊びに集中できる子供は、興味が勉強に向かうと、その分野でも集中力や探求心を発揮するのか、何人もの卒園児が研究者になった。そのうちの一人は、日本学術会議の「未来を嘱望する若手研究者」の一人に選ばれた。あのわんぱく小僧どもが？と思うと可笑的。Drになったうちの一人は10年に一人の大泣き虫だった。子供は変わる、その過程に関わることが大変楽しいし、卒園児たちが親になり、その子供や孫とまた一緒に過ごせることも嬉しい。たまにはなかなか園生活に馴染めない子供がいるが、少なくとも私の幼児期よりは登園できるだけで素晴らしい。自分の思い描いていた「機織り三昧」の老後とはかけ離れ、日々老いと闘いでもあるが、暫くは今の仕事を続けようと思う。



『看護学校の思い出と近況報告』

24回生 五十嵐 ユミ子

平成元年卒業の24回生です。私達の学生時代は土曜日午前中に学校がありました。実習が月曜から金曜まであり、土曜は授業や試験が行われる日々でした。土曜日は友達とロイヤルホストと当時あったデニーズを交互にランチを楽しむのが恒例でした。

私は昭和42年カリキュラムで学んだ最後の世代です。平成元年のカリキュラム改正でついに週休2日制が導入されました。全学生が集まった朝礼の場で学校の先生が「〇〇から土曜日は学校が休みになります。」と発表があった時、あちこちで「えー」と声が上がったのを今でも覚えています。

卒業後は国立横浜病院で臨床経験を積み、1年間の研修を経て教員(当時は教官)としての道を歩み始めました。平成20年4月から4年間母校に教員として勤務し、R6年4月に再び母校に戻ることとなりました。今、かつての学生は成長を遂げ、横浜医療センターにおいて実習指導者、認定看護師、副看護部長として活躍しています。講義にもご協力いただいております、その頼もしさに加え何より嬉しい気持ちでいっぱいです。母校と共に歩みを重ねていけることは、教員として何よりの醍醐味です。懐かしい記憶と現在が交差するこの場所で、看護の未来に向けて一歩ずつ力を注げることに、心から感謝しています。



36回生 三輪 佳織

学生時代を振り返ると、初めて親元を離れおんぼろ楓寮で仲間と過ごした日々。仲間に恵まれホームシックを感じることなく、毎日が新しく楽しい日々でした。学校の目の前に楓寮があり、チャイムの鳴る1分前に教室に走り込み、ギリギリ遅れていることも多かった座学時代。実習中に徹夜しても出来上がらなかった看護過程や看護計画を、恥ずかしげもなく実習指導者に提出し呆れられていたのが昨日のようです。何とか卒業し国家試験にも合格し、国立横浜病院に就職して、気が付けば20年が経過し銀の盃を頂いていました。病院名も国立病院の独立行政法人化に伴い横浜医療センターと名称が変わり、看護学校も病院も建て替わり懐かしの学び舎は、思い出の中となりました。先日行われた同窓会総会・懇親会に参加し、金子先生の秘蔵コレクション写真では、1回生の先輩方の在学中の写真から始まり、懐かしの学び舎の写真が多数スクリーンに映し出され、本当に懐かしく在学中の記憶がよみがえり、楽しかった日々を思い出しました。

私は今横浜医療センターを離れ、東京都立川市にある災害医療センターで働いています。横浜で過ごした日々を懐かしく思い出す毎日ですが、これまでの学び・経験・知識を活かし精進していきたいと思っています。



令和7年度 役員

会長 佐竹 一枝 (20回生)
副会長 寺澤 秀代 (9回生)
東山 景子 (37回生)

書記 西原 理枝 (41回生)
元田 聡美 (47回生)
会計 村松 真佐子 (18回生)
野澤 楓 (49回生)

会計監査 濱 法子 (14回生)
川口 妙子 (16回生)

令和7年度 幹事

1 回生 井 坂	20 回生 早 川	38 回生 成 田	46 回生 森	54 回生 川 野
2 回生 奥 村	21 回生 加 藤	39 回生 佐々木	47 回生 早 川	54 回生 小助川
3 回生 地 蔵	22 回生 江 口	40 回生 斎 藤	47 回生 村 上	54 回生 夏 川
4 回生 神 代	23 回生 伊 原	41 回生 霜 鳥	48 回生 山 本	54 回生 長 田
5 回生 深 石	24 回生 崎 山	41 回生 川 上	48 回生 平 田	55 回生 堀 尾
6 回生 井 上	25 回生 甲 田	42 回生 野 田	49 回生 角	55 回生 堤
7 回生 稲 垣	26 回生 長 尾	43 回生 平 沙	49 回生 佐 藤	56 回生 関 谷
8 回生 浅 野	27 回生 富 浦	43 回生 三 澤	49 回生 中 野	56 回生 遠 山
8 回生 渡 部	28 回生 木 内	44 回生 田 村	49 回生 平 山	57 回生 古 畑
9 回生 寺 澤	29 回生 清 水	44 回生 後 藤	50 回生 中 村	57 回生 西 山
10 回生 米 澤	30 回生 小 堺	45 回生 勝間田	51 回生 三 宅	57 回生 山 本
11 回生 小 泉	30 回生 中 野	45 回生 樋 渡	52 回生 出 野	57 回生 渡 邊
12 回生 大 幡	31 回生 松 岡	45 回生 寺 内	52 回生 玉 井	58 回生 沼 田
13 回生 市 川	32 回生 小 林	46 回生 荒 木	53 回生 田 邊	58 回生 武 士
14 回生 濱	33 回生 川 辺	46 回生 伊 藤	53 回生 切 替	59 回生 外 川
15 回生 大 津	33 回生 宮 寄	46 回生 小山田	53 回生 水 田	59 回生 原
16 回生 川 口	34 回生 巨 瀬	46 回生 坂 本	53 回生 森 田	60 回生 高 橋
17 回生 杉 山	35 回生 伊 藤	46 回生 田 尻		60 回生 日 高
18 回生 村 松	36 回生 三 輪	46 回生 中曾根		
19 回生 鈴 木	37 回生 池 江	46 回生 藤 川		

《 幹事の役割 》

- 1.自分のクラスメートの住所把握：
変更時や不明者の住所判明時は役員に連絡する。
- 2.幹事会への出席：年1回（6月第1土曜日）。
やむを得ず欠席の場合は責任を持って代理出席者を立てる。
- 3.同窓会事業への参加：
幹事交代時は次期幹事を責任を持ち決定し、役員に知らせる。

同窓会の主な活動

- ＊毎月役員会（第1土曜日）
- ＊学校式典へ出席
- ＊同窓会説明会（新入生、3年生）
- ＊同窓会会誌『楓葉』発行
会誌袋詰め 9月6日(土)10時病院会議室
- ＊楓葉祭へ参加 今年10月27日(土)

住所変更届けのお願い

改姓・住所変更等ありましたら同窓会本部まで、
メールまたはFAX、郵送にてお知らせ下さい。

<記載内容>

回生、氏名、変更内容（旧〇〇、新〇〇）、連絡先

同窓会本部

〒245-0063 横浜市戸塚区原宿3丁目60番2号

独立行政法人 国立病院機構

横浜医療センター附属横浜看護学校内

TEL.045-853-8322 (学校直通) FAX. 045-853-8348

E-mail. 219-yokohama-school@mail.hosp.go.jp

(※件名に「同窓会へ」と入力して下さい)

編集後記

心待ちにしていた10年ぶりの懇親会は大盛況でした。ん～十年前の懐かしい昔話に花を咲かせ、
楽しいひと時を過ごしました。2030年も、幅広い世代の方々が楽しく集える会を開催できますよう、
皆様と末永く繋がり、お力をお借りしながら、同窓会を活性化していきたいと思っております。どうぞ
引き続き、皆様の温かいご支援・ご協力をお願い申し上げます。